

高知県感染症発生動向調査（週報）

2014年 第21週（5月19日～5月25日）

★お知らせ

○感染性胃腸炎に注意して！

定点医療機関からの報告数は前週の 8.77 から 7.93 と横ばいですが、定点医療機関からのホット情報ではロタウイルスによる胃腸炎が多数報告されています。例年、3月から5月にかけて乳幼児を中心にロタウイルスによる胃腸炎の流行が認められるようになります。感染を広げないようにするには、排便後、調理や食事の前には石けんと流水で十分に手を洗いましょう。また、衣類（おむつ等）が便や吐物で汚れたときは、次亜塩素酸ナトリウム（家庭用塩素系漂白剤）で浸けおき消毒した後、他の衣類と分けて洗濯しましょう。

○インフルエンザに注意して！

定点医療機関からの報告数は 0.90 と前週と変化ありませんが、感染症情報収集システムでは学年・学級閉鎖が中央東、中央西福祉保健所管内でそれぞれ1校ずつ報告されています。また、迅速検査は全てインフルエンザウイルス B 型になっています。今後も手洗い、うがい及び咳エチケットの感染予防をしてください。

○アデノウイルス感染症について

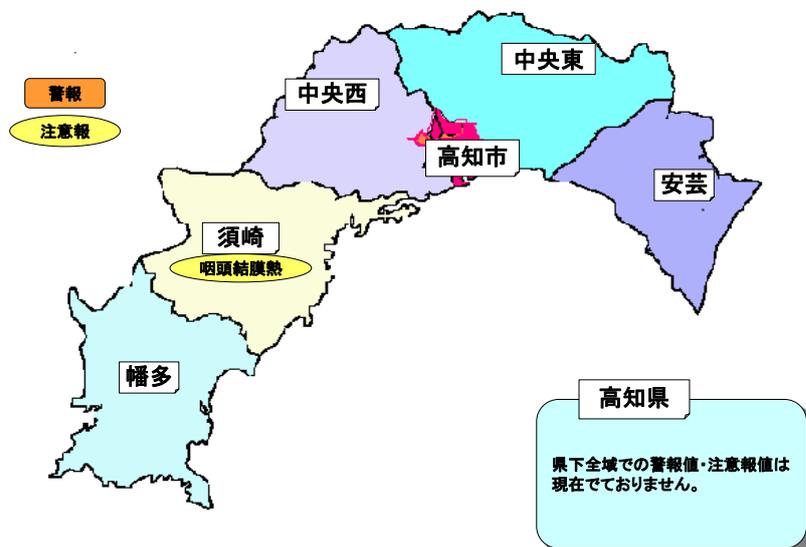
定点医療機関からのホット情報でアデノウイルスによる感染症が多数報告されています。アデノウイルスは咽頭結膜熱、咽頭炎、扁桃炎、肺炎などの呼吸器疾患、流行性角結膜炎などの眼疾患、胃腸炎などの消化器疾患、出血性膀胱炎などの泌尿器疾患、肝炎、膵炎や脳炎にいたるまで、多彩な臨床症状を引き起こします。予防法は、流水とせっけんによる手洗い、うがいをしましょう。また、感染者との密接な接触は避け、タオルなどは別に使いましょう。

★県内での感染症発生状況

定点把握感染症（上位疾患） ：急増 ：増加 ：横ばい ：減少 ：急減

疾病名	推移	定点当たり報告数	県内の傾向
感染性胃腸炎		7.93	安芸、幡多で増加しています。
感染性胃腸炎 （ロタウイルスに限る）		2.38	高知市で7人から19人に急増しています。
水痘		1.03	高知市、中央東、安芸で増加していますが、全体では減少しています。
インフルエンザ		0.90	中央西、須崎で増加しています。
流行性耳下腺炎		0.90	幡多で増加していますが、全体では減少しています。

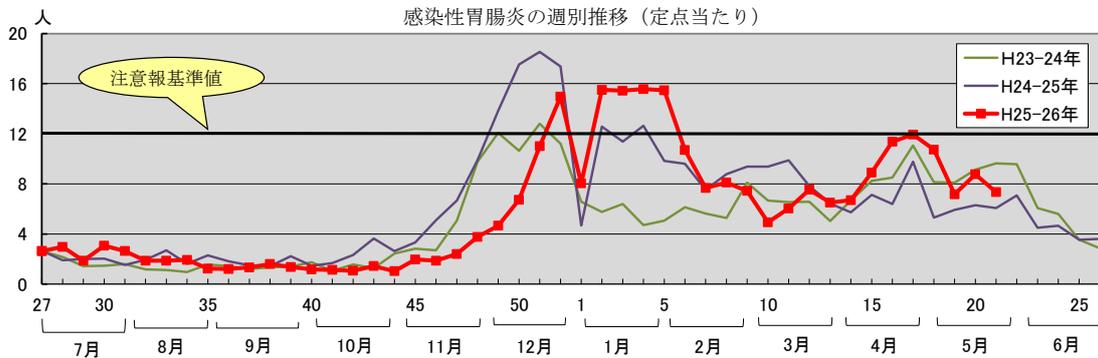
★地域別感染症発生状況



★気をつけて！

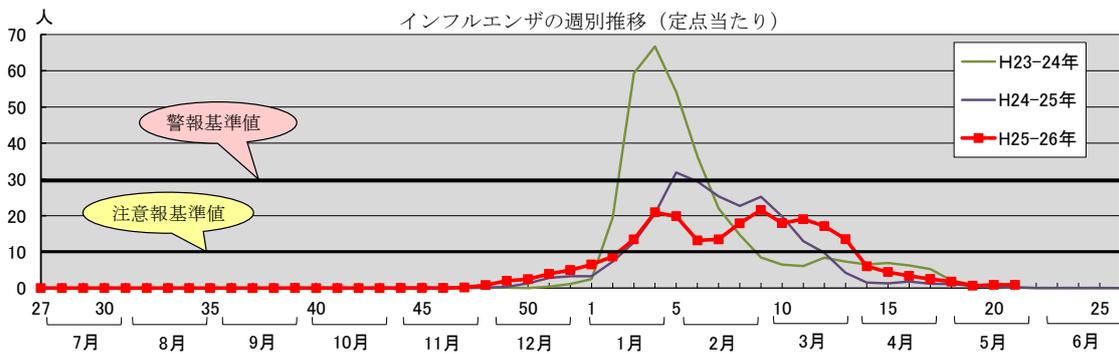
○**感染性胃腸炎**：7.93 （注意報値：12.00 警報値：20.00）

定点医療機関からの報告数は定点当たり 7.93（前週：8.77）と横ばいです。地域別にみると、安芸（9.00：前週 3.00）幡多（8.40：前週 7.00）で増加しています。また、ロタウイルスによる胃腸炎は定点当たり 2.38（前週：1.13）と2倍以上急増しています。年齢別にみると約90%が0歳～2歳になっています。



○**インフルエンザ**：0.90 （注意報値：10.00 警報値：30.00）

定点医療機関からの報告数は定点当たり 0.90（前週：0.90）と横ばいです。地域別にみると、中央西（4.20：前週 1.00）須崎（0.75：前週 0.50）で増加しています。



★病原体検出情報

受付週	臨床診断名	年齢	性別	保健所	ウイルス、細菌の検出状況
20	ヘルパンギーナ	1	女	高知市	Coxsackievirus A5
20	不明発疹症	5	男	須崎	Coxsackievirus B2
20	喘息様気管支炎	11ヶ月	女	高知市	Human metapneumovirus
20	急性上気道	8	男	中央東	Parainfluenza virus 2
20	急性中耳炎	11ヶ月	男	中央東	Rhinovirus
20	咽頭結膜熱	4	女	高知市	Rhinovirus
20	急性上気道炎	9ヶ月	男	高知市	Rhinovirus

★全数把握感染症

類型	疾病名	件数	累計	内 容	保健所
2類	結核	4	53	30歳代(女)	中央東
				40歳代(男)	高知市
				70、80歳代(男)	幡多
4類	重症熱性血小板減少症候群	1	1	70歳代(男)	幡多
	デング熱	1	1	20歳代(女)	高知市

★定点医療機関からのホット情報

保健所	医療機関	情報
安芸	田野病院小児科	ノロウイルス胃腸炎 1例 (1歳男)
中央東	あけぼの小児科クリニック	ロタウイルス胃腸炎 3例 (1、2、4歳) カンピロバクター腸炎 1例 (4歳)
	早明浦病院小児科	インフルエンザ B型 5例 (5~12歳) 咽頭結膜熱 (アデノウイルス) 2例
高知市	けら小児科・アレルギー科	アデノウイルス扁桃炎 2例 (0、1歳男) マイコプラズマ肺炎 4例 (8、13歳男、9、15歳女：咽頭迅速診断陽性) カンピロバクター+病原性大腸菌 O-153 1例 (11歳女) 病原性大腸菌 O-18 腸炎 1例 (8歳女) 病原性大腸菌 O-21 腸炎 1例 (1歳男)
	高知医療センター小児科	アデノウイルス 1例 (1歳女) ロタウイルス 6例 (7ヶ月、1歳3人男、8ヶ月、1歳女)
	細木病院小児科	ロタウイルス 11例 (7ヶ月、1歳3人、2歳2人、6歳男、1歳2人、2、6歳女)
	ふないキッズクリニック	ロタウイルス胃腸炎 1例 (1歳男)
	国立病院機構高知病院小児科	ロタウイルス胃腸炎 2例 (11ヶ月、2歳女)
中央西	くぼたこどもクリニック	感染性胃腸炎 1例 (9歳男：土佐市) インフルエンザ B型 10例 (内9人は同一学校、1人は家族)
	日高クリニック	ヒトメタニューモウイルス感染症 (気管支炎、肺炎) 2例 (2歳男女)
須崎	もりはた小児科	ロタウイルス胃腸炎 3例、インフルエンザ B型 3例 ヒトメタニューモウイルス 1例 (3歳女)
幡多	幡多けんみん病院小児科	hMPV1 例 (3歳男)
	渭南病院小児科	アデノウイルス咽頭炎 6例 (3、4、5、6歳男、1、4歳女)

★全国情報

第19週 (5/5~5/11)

- 1類感染症：報告なし
 - 2類感染症：結核203例
 - 3類感染症：細菌性赤痢1例、腸管出血性大腸菌感染症14例、腸チフス1例、パラチフス1例
 - 4類感染症：E型肝炎2例、A型肝炎6例、つつが虫病4例、デング熱1例、日本紅斑熱1例、マラリア1例、レジオネラ症10例
 - 5類感染症：アメーバ赤痢11例、ウイルス性肝炎3例、急性脳炎1例、クロイツフェルト・ヤコブ病2例
劇症型溶血性レンサ球菌感染症3例、後天性免疫不全症候群8例、ジアルジア症1例、
侵襲性肺炎球菌感染症44例、梅毒5例、破傷風3例、風しん7例、麻しん9例
- 報告遅れ：急性脳炎3例、劇症型溶血性レンサ球菌感染症2例

★海外の注目すべき感染症 (2014年5月23日)

現在、海外ではいくつか注目すべき感染症が流行している。2012年以降、初めて探知・報告され、不明な点が多い中東の中東呼吸器症候群 (MERS) や中国の鳥インフルエンザA (H7N9) などの新興感染症とともに、再流行あるいは拡大する恐れのある重篤なポリオやエボラ出血熱が、国際的に注目を浴びている。これらのウイルス性感染症に関して多くは特別な治療法は無く、ワクチンが確立しているのはポリオのみである。日本においても、これらの輸入例が発生する可能性に対して、継続的な監視、迅速な探知体制、院内感染対策の徹底、適時な情報共有などが重要である。本稿においては、直近の概要を提供することを目的とした。なお、FORTH (厚生労働省検疫所) サイトの「国・地域別情報」に国・地域別の感染症の流行状況、予防方法、体調が悪くなった場合の対応などの情報が掲載されている。

●中東呼吸器症候群 (MERS)

2012年9月以降、中東への渡航歴のある重症肺炎患者からMiddle East Respiratory Syndrome Coronavirus (MERSコロナウイルス) と命名される新種のコロナウイルスが分離されて以来、中東地域に居住または渡航歴のある者、あるいはMERS患者との接触歴のある者において、このウイルスによる重症呼吸器疾患の症例が継続的に報告され、医療施設や家族内等における限定的なヒト-ヒト感染が確認されている。WHOの報告によると2014年5月16日現在までに、中東呼吸器症候群 (MERS) 確定症例は614例 (うち181例死亡) 報告されている。多くは50歳近くの成人男性である。2014年3月以降、アラビア半島諸国を中心に初発例と院内感染症例を含む症例の報告が急増し、4月は過去最大の月間報告数を記録している。感染源と感染経路は依然として明確ではないが、持続的なヒト-ヒト感染はみられていない。しかし、アラビア半島諸国において医療従事者等

への限定的なヒトヒト感染が多数報告されており、これに起因する輸入症例が欧州、北アフリカ、アジア（フィリピン、マレーシア）及び米国からも報告されている。

WHOは、国際保健規則（IHR）に基づく対応として、緊急委員会の開催（第五回2014年5月13日）を行い、現時点では、ヒトヒト感染は限定的で、深刻だが「国際的な懸念のある公衆衛生上の緊急事態（PHEIC）」には至っていないとの声明を発表した。ただし、この声明の中でWHOは、MERS患者及びその接触者の探知体制や患者に関わる対応を強化すること、院内感染対策を徹底すること、国際社会と迅速な情報共有を行うことを要請している。

日本においても、今後、輸入例が発生する可能性はある。医療従事者は、重症呼吸器疾患患者の渡航歴および接触歴を確認するとともに、標準予防策の徹底が必須である。確定例が発生した場合は、接触者等の確認を適切に行う必要があり、二次感染予防が重要である。厚生労働省は、平成24年9月以降、情報提供及び協力依頼、症例定義及び国内検査体制等に関する情報を発信している。平成26年5月16日には症例定義の更新等を行った。

●鳥インフルエンザA（H7N9）

鳥インフルエンザA（H7N9）は中国から2013年4月に初めて報告された。2014年5月15日現在、少なくとも400例（うち150例以上の死亡）が中国本土および台湾・香港・マレーシアから報告されている（すべての症例において発症2～4日前に中国本土に居住または滞在していたことが報告されている）。症例は、浙江省、広東省、江蘇省、上海市で多く報告され、多くは50歳近くの成人男性である。軽症例も報告されているが、臨床像は、基本的には急速に進行する重症肺炎である。2013年2月から5月（「第一波」）と比べ、2013年10月以降（「第二波」）は、症例数の報告が増加し、2014年1月は過去最大の月別発症数を記録している。

持続的なヒトヒト感染はみられず、本年1月以降流行は減少傾向である。しかし、感染源と感染経路は依然として明確ではなく、中国から香港に輸入された家きんから鳥インフルエンザA（H7N9）ウイルスが検出される等、今後も慎重かつ継続した監視が重要である。これまでに感染した患者が報告された地域及びその近隣の地域では、今後も患者が発生することが予想される。鳥インフルエンザが懸念される地域への渡航者や、その地域からの帰国者が重症の急性呼吸器症状を発症した場合には、鳥インフルエンザへの感染も考慮すべきである。手洗いや咳エチケットを心掛け、流行地域においては、生きた鳥を扱う市場等へのむやみな立ち入りや、病気の鳥などに接触しないことが大事である。なお、日本全国の検疫所では、中国から入国される方に注意喚起カードを配付している（入国後10日間の健康状態を確認するとともに、インフルエンザ様の症状が出た場合、最寄りの保健所に中国への渡航歴と症状について電話で連絡し、相談するためのカード）。

●ポリオ

ポリオは、ワクチンで予防できる疾患のうち最も重要な疾患の一つである。ポリオウイルスは口の中に入り、腸で増加し、再び便の中に排泄され、この便を介してさらに他人に感染する。ポリオの世界的根絶は近いと期待されているが、シリアやパキスタンなど内戦が続く十分な予防接種率が達成できない状況などから野生型ポリオウイルスが国際的に拡大している。2014年には、現在ポリオ症例が発生している10カ国のうち3カ国から野生型ポリオウイルスの国際的な広がりが認められた〔中央アジア（パキスタンからアフガニスタン）、中東（シリアからイラク）、中央アフリカ（カメルーンから赤道ギニア）〕。

欧州地域でも警戒を強めていて、WHOは国際保健規則（IHR）に基づく対応として、2014年4月28日に緊急委員会の開催を行い、5月5日にポリオの国際的拡大について「国際的な懸念のある公衆衛生上の緊急事態

（PHEIC）」を宣言した。WHOは現在、野生型ポリオウイルスの国外への伝播が発生していると思われるパキスタン、カメルーン、シリアには、徹底したワクチン接種や野生型ポリオウイルスの国外伝播防止活動を積極的に推奨している。また、野生型ポリオウイルスに感染した患者の報告があるが現在国外への伝播が認められていない国に関しても、具体的なワクチン接種活動を推奨している。

わが国では、感染症法によるポリオ患者の報告や感染症流行予測調査事業等に基づく複数のサーベイランスにより、野生型ポリオウイルスに感染した患者の発生が認められていないことを、疫学的・ウイルス学的に確認している。ポリオウイルスが日本国内に持ち込まれても、現在殆どの人がワクチン接種による免疫を持っており、大きな流行になることは考えにくい。しかし、現在の国際的拡大状況は、改めてポリオに関する予防接種の重要性が強調される。わが国では、2012年9月に単独の不活化ポリオワクチンと2012年11月に4種混合ワクチンが導入されており、定期接種対象者は必要な接種をしっかりと受けってもらうと共に、流行国への渡航者は必要な情報や対応についてFORTH等より把握してもらいたい。

●エボラ出血熱

1976年に中央アフリカで発見されて以来西アフリカで初めてのエボラ出血熱の集団発生が発生しており、2014年3月以降、200例を超える症例が報告されている。エボラ出血熱は、死に至ることが多い重篤な感染症であり、発症した患者の血液、唾液や排泄物（あるいは汚染された物や感染した動物）に直接接触した時感染する。2014年5月15日現在、WHOの報告によると、ギニアで臨床的にエボラウイルス疾患患者であるとされた累計症例数は248例（うち死亡171例）である。リベリアでは、本年3月に臨床例が報告されてから、現時点での最終検査確定例の発症日は4月6日である。

リベリアとシエラレオネとの国境付近で感染が起きていることから、感染拡大の懸念もあり、慎重かつ継続した監視が重要である。また、集団発生時には、保健医療従事者の感染も稀ではなく、医療機関を始めとする徹底した感染防止策が求められている。WHOは国際機関等と連携し、疫学調査や感染症対策等に関し両国政府への支援を行っており、国際協力の一環として日本の専門家も派遣されWHOミッションに参加している。（国立感染症研究所感染症疫学センター）

.....

高知県感染症情報(58定点医療機関)

第21週 平成26年5月19日(月)～平成26年5月25日(日)

高知県衛生研究所

定点名	疾病名	保健所	第21週					計	前週	全国(20週)	高知県(21週末累計)		全国(20週末累計)	
			安芸	中央東	高知市	中央西	須崎				幡多	H25/12/30～H26/5/25		H25/12/30～H26/5/18
インフルエンザ	インフルエンザ			6	12	21	3	1	43 (0.90)	43 (0.90)	4,076 (0.83)	10,723 (223.40)	1,454,392 (295.25)	
小児科	咽頭結核熱			2	4			2	1	9 (0.30)	6 (0.20)	1,870 (0.59)	111 (3.70)	24,302 (7.74)
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎			9	3	4	1	4	21 (0.70)	23 (0.77)	8,783 (2.78)	364 (12.13)	120,268 (38.30)	
	感染性胃腸炎	18	28	104	31	15	42	238 (7.93)	263 (8.77)	27,587 (8.74)	6,072 (202.40)	472,737 (150.55)		
	水痘	2	7	10	2		10	31 (1.03)	62 (2.07)	3,988 (1.26)	721 (24.03)	70,210 (22.36)		
	手足口病			1				1 (0.03)	1 (0.03)	558 (0.18)	16 (0.53)	6,886 (2.19)		
	伝染性紅斑			1				1 (0.03)	2 (0.07)	769 (0.24)	19 (0.63)	7,901 (2.52)		
	突発性発疹			8	2	5	3	18 (0.60)	13 (0.43)	2,018 (0.64)	231 (7.70)	29,126 (9.28)		
	百日咳							()	()	39 (0.01)	5 (0.17)	608 (0.19)		
	ヘルパンギーナ	1	7		1		1	10 (0.33)	()	542 (0.17)	15 (0.50)	2,377 (0.76)		
	流行性耳下腺炎		5	13	2		7	27 (0.90)	35 (1.17)	919 (0.29)	890 (29.67)	14,455 (4.60)		
RSウイルス感染症	3						3 (0.10)	2 (0.07)	299 (0.09)	288 (9.60)	21,110 (6.72)			
眼科	急性出血性結膜炎							()	()	8 (0.01)	()	163 (0.24)		
	流行性角結膜炎			1				1 (0.33)	1 (0.33)	451 (0.66)	18 (6.00)	7,190 (10.56)		
基幹	細菌性髄膜炎							()	()	7 (0.01)	4 (0.50)	159 (0.34)		
	無菌性髄膜炎			1				1 (0.13)	()	12 (0.03)	7 (0.88)	276 (0.58)		
	マイコプラズマ肺炎			4				4 (0.50)	9 (1.13)	135 (0.29)	82 (10.25)	2,130 (4.51)		
	クラミジア肺炎(オウム病は除く)							()	()	11 (0.02)	5 (0.63)	156 (0.33)		
	感染性胃腸炎			19				19 (2.38)	9 (1.13)	314 (0.67)	100 (12.50)	2,825 (5.99)		
計	24	64	181	63	26	69	427		52,386	19,671	2,237,271			
(小児科定点当たり人数)	(12.00)	(8.84)	(13.83)	(18.20)	(12.25)	(13.73)	(12.85)			(514.46)				
前週	8	58	226	72	36	69		460						
(小児科定点当たり人数)	(4.00)	(7.62)	(18.43)	(23.33)	(17.50)	(13.18)		(14.48)						

注 ()は定点当たり人数。

高知県感染症情報(58定点医療機関) 定点当たり人数

定点名	疾病名	保健所	第21週					計	前週	全国(20週)	高知県(21週末累計)		全国(20週末累計)
			安芸	中央東	高知市	中央西	須崎				幡多	H25/12/30～H26/5/25	
インフルエンザ	インフルエンザ		0.55	0.75	4.20	0.75	0.13	0.90	0.90	0.83	223.40	295.25	
小児科	咽頭結核熱		0.29	0.36		1.00	0.20	0.30	0.20	0.59	3.70	7.74	
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		1.29	0.27	1.33	0.50	0.80	0.70	0.77	2.78	12.13	38.30	
	感染性胃腸炎	9.00	4.00	9.45	10.33	7.50	8.40	7.93	8.77	8.74	202.40	150.55	
	水痘	1.00	1.00	0.91	0.67		2.00	1.03	2.07	1.26	24.03	22.36	
	手足口病			0.09				0.03	0.03	0.18	0.53	2.19	
	伝染性紅斑			0.09				0.03	0.07	0.24	0.63	2.52	
	突発性発疹			0.73	0.67	2.50	0.60	0.60	0.43	0.64	7.70	9.28	
	百日咳									0.01	0.17	0.19	
	ヘルパンギーナ	0.50	1.00		0.33		0.20	0.33		0.17	0.50	0.76	
	流行性耳下腺炎		0.71	1.18	0.67		1.40	0.90	1.17	0.29	29.67	4.60	
RSウイルス感染症	1.50						0.10	0.07	0.09	9.60	6.72		
眼科	急性出血性結膜炎									0.01		0.24	
	流行性角結膜炎			1.00				0.33	0.33	0.66	6.00	10.56	
基幹	細菌性髄膜炎									0.01	0.50	0.34	
	無菌性髄膜炎			0.20				0.13		0.03	0.88	0.58	
	マイコプラズマ肺炎			0.80				0.50	1.13	0.29	10.25	4.51	
	クラミジア肺炎(オウム病は除く)									0.02	0.63	0.33	
	感染性胃腸炎			3.80				2.38	1.13	0.67	12.50	5.99	
計	12.00	8.84	13.83	18.20	12.25	13.73	12.85			514.46			
(小児科定点当たり人数)	12.00	8.84	13.83	18.20	12.25	13.73	12.85			514.46			
前週	4.00	7.62	18.43	23.33	17.50	13.18		14.48					
(小児科定点当たり人数)	4.00	7.62	18.43	23.33	17.50	13.18		14.48					

発行：高知県感染症情報センター（高知県衛生研究所）
〒780-0850 高知市丸ノ内2-4-1(保健衛生総合庁舎2階)
TEL：088-821-4961 FAX：088-825-2869